

日本語教育のための同音和語の アクセント調査

李 香 蘭*

(e-mail: ran96@wonkwang.ac.kr)

目 次

1. はじめに	3.3 3拍同音和語
2. 調査方法と手順	3.4 4拍同音和語
3. 分析結果	3.5 5拍同音和語
3.1 1拍同音和語	4. おわりに
3.2 2拍同音和語	

1. はじめに

日本語には漢語や和語などに同音語がたくさん存在し、これをアクセントによって区別することができる。日本語のアクセントの重要な機能の一つがこのような同音語の弁別ということになる。有名な例として「ハシ①¹⁾箸、②橋」や「アメ①雨、◎²⁾飴」などがある。これらの例のように、アクセントが同音語をどれぐらい区別しているのだろうか。

東京アクセントでは「雲」も「蜘蛛」も同じアクセント (①) であるのはよく知られているが、この2つの語がアクセントによって弁別されている方言も存在する。そこで、ある時期は東京アクセントにもこれを採り入れようという声があったそうであるが、果たしてそういう声が有効であるか。この「クモ」の他にも同音語にアクセントの弁別のない例はたくさん存在すると予想される。

同音語のアクセントの研究は漢語が中心で、同音和語アクセントの研究については宮地(1980)の論考の他、未だに管見に入っていない。宮地(1980)では国研報告二〇『同音

* 圓光大学校日本語教育学科教授、日本語音声教育・音韻論専攻

1) アクセント核が1拍目にあることを示している。②は2拍目、◎は平板型を示している。

語の研究』所収の「同音語集」を1ページおきに奇数ページを扱って和語・漢語・洋語を調べたもので、同音和語の数は示唆に乏しい。

そこで、本稿では主にNHK編(最新版²⁾)『日本語発音アクセント辞典』(以下、『NHK辞典』と省略する。)に記載されている同音和語をすべて抜き出して、日本語の高低アクセントがどれぐらい同音和語の弁別に関わっているのかを調査・分析する。

この調査の究極的な目的は今後、日本語のアクセント教育に役に立つことである。

2. 調査方法と手順

NHK辞典に記載されている同音和語³⁾をすべて抜き出して拍数別に整理し、それぞれの組がアクセントの弁別があるかないかを分析・検討した。まず、アクセントがすべて別の語(Aとする)やすべて同じアクセントの語(Bとする)を語彙数別に分類した。それからAとBが混ざっている組は(A+B)にして分析した。

アクセントのゆれのある語については、表記は全部しておくが、優勢なアクセント型のみ分析の対象とした。アクセントのゆれのある語は『新選国語辞典(2011年版)』や『新明解国語辞典(2012年版)』に記載されているアクセントと比較して表記しておいた。

同音語の語彙数は、原則としてコンマ「,」を基準として数えるが、この基準に問題がある場合⁴⁾は『広辞苑』、『新選国語辞典』(以下「選」とする)、『新明解国語辞典』(以下「明」とする)を参考にして語彙数を決めた。

NHK辞典所収の同音和語は総1187組が調査されたが、接頭語「お」のついたもの9組や「漢語+する」の例50組、それから品詞が変わるだけで、根本的な意味が変わらないオノマトペ類(56組)と「昨日②[名詞]◎[副詞]、このまま④名詞◎副詞」などの類(22組)は本稿の分析対象から除外する。これらの例137組を除いて、1050組が本稿の分析・検討の対象となる。

2) 1999年版のもので、未だに新しい版が出版されていない。そこでアクセントのゆれのある語については『全国アクセント辞典(1985年版)』、『新選国語辞典(2011年版)』、『新明解国語辞典(2012年版)』などを参照する。

3) 和語と漢語の同音語や和語と外来語の同音語は調査の対象とせず、和語の同音語のみ対象とする。同音和語は辞書によってその数が少々差があると思われるが、本稿ではNHK辞典所収の同音和語のみ調査対象とする。

4) 例えば「スル①刷る, する<摺る, 磨る, 摩る, 櫛る, 擦る, 揃る>◎する<為>」はNHK辞典には8語組となっているが、『広辞苑』、『新選国語辞典』、『新明解国語辞典』には4語組「スル①刷る, <揃る>, <磨る> ◎する<為>」となっている。

3. 分析結果

同音和語1050組を拍数別にアクセントを分析した結果を<表1>にまとめた。アクセントの弁別のあるもの(A)は241(23.0%)組であるのに対して弁別がなく、同じアクセントの例(B)は684(65.1%)組も調査された。またアクセントの弁別のあるものとないものが混ざっている例((A+B)の語)は125(11.9%)組が見られた。このように、アクセントによる同音語の弁別は顕著なものとは言えないだろう。

拍数別の特徴をみると、同音語は1拍語から6拍語まであり、この中で3拍語の同音語が409組で一番多かった。アクセントの弁別が一番多いのは2拍語で93組(38.6%)が見られ、同じアクセントの例が最も多いのは3拍語で308(45.0%)組が得られた。

<表1> 拍数別アクセントの内訳

拍数/ア	アの弁別組(A)	同じア組(B)	(A+B)の組	合計
1拍	7(31.8)2.9%	9(40.9)1.3%	6(27.3)4.8%	22(2.1%)
2拍	93(25.8)38.6%	175(48.6)25.6%	92(25.6)73.6%	360(34.3%)
3拍	74(18.1)30.7%	308(75.3)45.0%	27(6.6)21.6%	409(39.0%)
4拍	66(30.4)27.4%	151(69.6)22.1%	0	217(20.7%)
5拍	1(2.5)0.4%	39(97.5)5.7%	0	40(3.8%)
6拍	0	2(100)0.3%	0	2(0.2%)
合計	241(23.0%)	684(65.1%)	125(11.9%)	1050組

* ()の中の数字は各拍数の中でのアクセントの弁別の有無の割合で、
外の%数字は拍数別アクセントの弁別の有無の割合を表している。

3.1 1拍同音和語

1拍の同音和語は22組が調査されたが、この内、アクセントの弁別の語は7組「ウ①鵜◎卵、カ①香◎蚊、コ①粉◎子、チ①乳◎血、デ①出(量)◎出(人の～が少ない)、ト①<砥>◎戸、ナ①菜◎名」で、全部2語組で頭高型(①)と平板型(◎)がミニマル・ペアとなっている。

それから同じアクセントの語は9語組で、この内2語組4例「ズ◎凶,頭、5)ホ①穂、①◎6)帆、マ◎間,真(～に受ける)、メ①目,芽」と3語組5例「オ①尾,緒,<麻>、キ①木,生,黄、モ◎藻,<裳>,喪、ヤ①矢,屋,家、ヨ①夜,世①◎代」が調査された。

5) 便宜上「,」は同音語の例を並べるときに使い、「、」はそれぞれの同音組を並べるときに使う(以下同じ)。

6) 選①明①◎で表記されている。このように揺れのある語は2. のところで言及したように優勢なアクセント型のみ分析の対象となるので、ここでは①が対象になる(以下同じ)。

アクセントの弁別のあるものとなないものが混ざっている例(以下((A+B)の語)という)は(6組で、この内3語組は<表 2 >の 1 例で、4語組は3例で表の例の他に「セ①敵,背(～が高い),◎①⑦瀬,背(～を向ける)、ミ①み<箕>◎身,実,<巳>」が見られた。残り2例は表のように 5・6 語組1例ずつである。

このように 1 拍の同音和語にはアクセントの弁別のある語(A)より同じアクセントの組(B)がやや多く調査された。

<表 2 > 1 拍同音和語

	異なるアの語(A)	同じアの語(B)	(A+B)の語
2 語組	7 ①乳◎血	4 ①目, 芽	_*
3 語組	0	5◎藻, <裳>, 喪	1 ①荷, 丹◎似
4 語組	0	0	3①絵, 江◎柄, 枝
5 語組	0	0	1①葉, 刃, 端 ◎葉, 羽
6 語組	0	0	1①根 ◎値, 音, 寝, 子, 嶺
計22	7	9	6

* (A+B)の_印は理論上存在していないことを現している。

3.2 2 拍同音和語

2 拍の同音語は<表 3 >のように総360組が得られた。この内、アクセントがすべて異なる語(以下Aとする)即ち、アクセントの弁別のある組は93例で、すべて同じアクセントの語(以下Bとする)175組を多く下回っている。AとBが混ざっている例を合わせれば、アクセントの弁別組の割合はさらに低くなると言える。例えば<表 3 >の「イキ」の場合「①息◎生き, 粹, 行き」のようにアクセントは①と◎二通りであるが、それぞれ意味の違う語は 4 つも存在している。

次に<表 3 >の具体的な例を順番に採りあげる。

[Aの2語組]

アサ①朝◎麻、 アジ①鯨◎味、 アワ①<粟>②泡
ウジ①氏◎蛆、 ウエ②飢え◎上、 ウル①得る◎売る
カキ⁸⁾牡蛎①②垣◎柿、 カメ①亀②甕、 キル①切る◎着る

7) 「瀬」の意味は(選◎明◎①)で、「背」は(選①明①)で記載されていた。

8) 「牡蛎」は(選①明①)で、「垣」の意味は(選②明②)で記載されていた。

クワ①桑◎くわく鋏>、 コト①琴②事、 サケ①鮭◎酒
 シル①汁◎知る、 チリ①ちり(料理)◎<塵>、 ナミ②波◎並
 ナル①成る◎鳴る、 ネル①練る◎寝る、 ハチ②鉢◎<蜂>
 ハラ①原②腹、 ハレ②晴れ◎<腫>、 ヘル①経る◎減る
 メス①召す②雌、 モモ①<股>◎桃、 モル①漏る◎盛る など

[合計89組]

このように、アクセントによって弁別される2拍の同音和語93組のうち、89組が2語組となっていることが特徴である。残りの例はAの3語組で、表の例の他「シロ①白②代(田の～)◎城、ハギ①◎②⁹⁾<萩>②<脛>◎<接>、ヨイ①(いい)②①◎¹⁰⁾酔い◎宵」がある。

[Bの2語組]

表の「◎風、風邪」のように2語が同じアクセントとなっている例で134組が得られ、次に一部の例を採りあげる。

ウチ◎内、家、 ウバ①乳母,<姥>、 オウ◎追う、負う
 カギ◎<鍵, 鈎>、 キミ◎君, 黄身、 クズ①屑, 葛
 クモ①雲, 蜘蛛、 サビ②寂, 錆、 シモ②霜, 下
 ソコ◎底, 其処、 タダ①唯, 只、 ツボ◎坪,<壺>
 ツリ◎釣り,<吊>、 ニル◎似る, 煮る、 ノル◎乗る, 載る
 ハメ②羽目, はめ(とんだ～)、 フク◎<拭, 茸>
 ホヤ①<火屋>(ランプの～),<海鞘>、 ホル①掘る, 彫る
 マツ①松, 待つ、 マユ①繭, <眉>、 ムキ①向き, <本気>(～になる)
 モツ①持つ, もつ(臍物)、 ヤク◎焼く,<妬>、 ワタ②綿, <腸> など

[合計134組]

同じアクセントの語も2語組に集中されていて、総175組のうち、134組(76.6%)が分析された。残り41組は次のように3・4・5・6語組からなっている。

[Bの3語組]

オル①折る, 織る, おる<居>、 カゲ①影, 陰,<鹿毛>

9) 「萩」の意味は(選①明①)で記載されている。

10) 「酔い」の意味は(選②明◎②①)で記載されている。

カツ①カツ, < 克, 且 >、 カド①門, 角, < 廉 >
 カル◎刈る, 狩る, 駆る◎①¹¹⁾、 クル①来る, 繰る, くる< 剝 >
 シオ②塩, 潮, < 機会 >、 スム①住む, 澄む, 済む
 セク①咳く, 急く, 塞く、 タコ①虱, 蛸, 胼胝
 ムネ②胸, 旨, ②◎¹²⁾棟) など

[合計30組]

[Bの4語組]

表の1例の他に「トモ①友, 共, ①②¹³⁾< 鞆 >, < 鱸 >」1組がある。

[Bの5語組]

カネ◎金, 鐘< 鉦, 鉄, 矩 >
 サス①差す, 刺す, 指す, 挿す, さす< 注, 点 >
 タテ①縦, < 経, 豎, 楯 >, ①②¹⁴⁾タテ< 殺陣 >
 ツグ◎次ぐ, 告ぐ, 継ぐ, 接ぐ, つぐ< 注 >
 トク①解く, 説く, 溶く, < 梳 >, < 疾 >[副]
 ヒク◎引く, 弾く, < 挽, 碾, 轆 >
 ヨシ①由, < 良, 善, 好 >, < 葦 >, < 縦 >, ①②¹⁵⁾< 止 >(～にする)

[全例8組]

Bの5語組は表の例「カワ」を含め全部8組見られた。Bの6語組は表の1組のみである。このようにすべて別なアクセントの組は2語組と3語組しかないのに対してすべて同じアクセント組は2語組から6語組まで例がある。これは一つのアクセントで多くの同音異義語を現しているということである。AとBの共通の特徴はそれぞれの例が2語組に集中的に集まっていることである。

(A+B)の語は3語組¹⁶⁾から6語組まで総92組が分析され、このうち一番多いのは3語組で43例が調査された。これらの例は次のようである。

[(A+B)の3語組]

アカ①赤, < 銅 > ②< 垢 >、 アメ①雨, 天◎飴

- 11) 「駆る」の意味は(選◎明◎①)で記載されている。
- 12) 「棟」の意味は(選②明②)で記載されている。
- 13) < 鞆 >は(選①明①)で、< 鱸 >は(選①明①②)で記載されている。
- 14) タテ< 殺陣 >の意味は(選②明①)で記載されている。
- 15) < 止 >の意味は(選①明①②)で記載されている。
- 16) 2語組は理論上存在していないから3語組から始まる。

カウ①飼う, 交う◎買う, クム①組む◎酌む, <汲む>
 サク①裂く, 割く◎咲く, タビ①足袋②旅, <度>
 ツギ②次◎継ぎ, 接ぎ, トリ②取り◎鳥, <酉>
 ナキ①亡き◎泣き, 鳴き, ノミ①<鑿>②飲み, <蚤>
 ハル①春◎張る, <貼る>, フル①降る, 古◎振る
 マメ②豆, <肉刺>◎<充実>, ユキ②雪◎<裾>, 行き
 ワク②悴◎沸く, <湧> など

[合計43組]

[(A+B)の4語組]

ウミ①海②膿◎生み, 産み
 カケ②掛け, かけ(そばの~), <賭>◎欠け(かけら)
 カマ①鎌◎窯, <釜, 竈>, カミ①上, 神②紙, 髪
 キク②菊◎聞く, 効く, 利く, キリ①錐②切り◎霧, 桐
 スル①刷る, <掬る>, <磨る>◎する<為>
 ツム①詰む, 錘◎摘む, 積む, ツユ①露, <汁>, つゆ(~知らぬ)◎梅雨
 ノリ②<糊, 海苔, 法(則)>◎乗り, ハシ①<箸>, <嘴>②橋◎端
 ハナ①<端>(~から) ②花◎鼻, <涙> など

[合計28組]

[(A+B)の5語組]

カサ①傘, <笠, 量>②<嵩>◎<瘡>
 コマ①独楽, <駒>, ①◎17)小間, <駒>(馬将棋の~)◎<駒>(三味線の~)
 ナリ①<也>②<生, 形>, 成り ◎鳴り
 モリ①守り②漏り◎森, 盛り, <鉢> など 表の例「スミ」を含め9例が見られた。

[(A+B)の6語組]

イル①射る, 鋳る, いる<炒(煎)> ◎居る, 入る, 要る
 カタ①肩, ①②18)片②型, 形, 方, <瀉>
 ツキ②月, 付き, 尽き(運の~), 憑, <搗>◎突き
 ハク①吐く, 掃く, <刷>◎履く, <穿, 佩>
 タツ①立つ, 建つ, 断つ, 裁つ ◎竜, <辰>

[合計12組]

17) 「小間」は(選◎明①◎)で、<駒>は(選①明①◎)で記載されている。

18) 「片」の場合、(選②◎明②)となっている。

＜表 3＞ 2 拍同音和語

	異なるアの語 (A)	同じアの語 (B)	(A+B)の語
2語組	89 ①朝②麻	134 ◎風, 風邪	_*
3語組	4 ①秋②飽き◎空き	30①恋, 濃い, 鯉	43 ①<葦>②足, 脚
4語組	0	2 ①去る, 猿, 申 去る(～一日)	28 ①息 ◎生き, 粹, 行き
5語組	0	8 ②川, 河, 皮, 革, 側	9 ①隅②①酸味 ②炭, 墨, 濟み
6語組	0	1①取る, 執る, 採 る, 捕る, 撮る, とる	12①鶴 ②①弦, 蔓 ◎釣る, つる<吊, 攀>
計360	93	175	92

* (A+B)の_印は理論上存在していないことを現している。

3.3 3 拍同音和語

3 拍和語の同音語は2語組から6語組まで総409組が調査された。このうち、アクセントの弁別のある例は74組 (18.1%)、弁別のない例は308組 (75.3%) が分析され、弁別のない組の割合が弁別のある組の割合を大きく上回った。

2拍和語の同音語に比べアクセントの弁別の割合(25.8% : 48.6%)はさらに低かった。理論上、2拍語より3拍語の方がアクセント型の数が多く現れるので、3 拍語の方がアクセントの弁別の割合が高くてもおかしくないのであるが、次の例のように 2 拍語より少ないのは注目すべきである。

[Aの2語組]

アオイ②青い, ◎葵、 ウエル②飢える, ◎植える、 オーイ¹⁹⁾①②多い, ◎③覆い
オモイ②思い, ◎重い、 オモニ①主に, ◎重荷、 クサリ③腐り, ◎鎖
チカイ②近い, ◎②²⁰⁾誓い、 ツバキ①<椿>, ③<唾>、 ナマリ③<訛>, ◎鉛
ノロイ②<鈍>, ◎②③²¹⁾<呪>、 ハヤシ③<囃子>, ◎③²²⁾林、
マカス②任す, ◎負かす、 ミモノ③見もの, ◎実物、 メグム②芽ぐむ, ◎恵む

[合計73組]

19) 「多い」は(選①明①②)で、「覆い」の場合は(選◎明◎③)となっている。

20) 「誓い」の場合は(選◎明◎)と記載されている。

21) <呪>は(選◎明◎③)となっている。

22) 「林」の場合は(選◎明◎③)と記載されている。

[Aの3語組]は<表4>の「アマリ」1組のみである。

[Bの2語組]

アセル②焦る,あせる<褪>、 イタミ③痛み,傷み、 オドル◎踊る,躍る
 カタイ◎固い,難い、 カワセ◎為替,川瀬、 カワラ◎河原,<瓦>
 クライ◎位,暗い、 コノミ①木の実,①③②③好み、 サカナ◎魚,肴
 サケル②裂ける,避ける、 サワル◎障る,触る、 ソナエ②③②供え,備え
 チラシ◎散らし,ちらし[料理]、 ツツミ③堤,包み、 トマリ◎泊まり,止まり
 ハゾク◎除く,のぞく<覗>、 ハラウ②払う,はらう<被>
 ホコリ◎<埃>,◎③②⑤誇り、 ホシイ②欲しい,<乾飯(糲)>
 ムレル②群れる,蒸れる、 ヤスイ②安い,やすい<易>

[合計262組]

[Bの3語組]

アライ◎荒い,粗い,洗い、 イタム②痛む,悼む,傷む、
 オカミ②女将,主婦,お上(政府)、 カタギ◎堅気,形木,かたぎ<気質>
 コバシ◎<拳>,小節(～きいた歌),◎①②⑥辛夷
 サメル②冷める,覚める,さめる<褪>、 サラウ◎浚う,復習う,攪う
 タテル②立てる,建てる,たてる<点>、 ハナス②話す,放す,離す
 ヒトデ◎人手,人出,<海星>、 フケル②更ける,老ける,ふける<耽>

[合計42組]

[Bの4語組]

ウツス②写す,映す,移す,うつす<遷>
 カカル②係る,掛かる,架かる,かかる[連体詞]
 タケル②長ける,<哮>ける,猛る,<鬨>ける

[全例4組]

このように、Bの4語組は表の「オコル」を含めて4組(16語)が見られたが、「かかる[連体詞]」1語を除いて15語の品詞が動詞であることが目立つ。Bの5語組と6語組は

23) 「好み」の場合は(選①明③①)となっている。

24) 「供え」は(選×明③②◎)で、「備え」の場合は(選③②明③②)と記載されている。

25) 「誇り」の場合は(選◎明◎③)となっている。

26) 「辛夷」の意味は(選◎明◎①)と記載されている。

1 例も見当たらない。

[(A+B)の 3 語組]

アカシ①明石, ◎あかし<灯,証>, イケる②生ける,<埋>, ◎行ける
 カラス①鳥, ◎枯らす,からす<涸>, カタミ①肩身, ◎片身,形見
 カマス②かます<嚙>, ◎かます<鯛>, ◎③²⁷⁾吠
 シノブ①忍[植物], ②◎²⁸⁾忍ぶ,偲ぶ, ナラス②慣らす,ならす<均>◎鳴らす
 ハモノ①刃物◎端物,葉物, ルイ②古い◎<篩>,震い

[合計22組]

(A+B)の語では、2 語組は理論上現れず、(A+B)の 3 語組は22組が得られ、(A+B)の4語組は<表 4 >の例「アツい」の他に「ハナミ①②花実③花見◎羽並み◎①(注)歯並み」があった。(A+B)の 5 語組は表の例「シメル」の他に「カエル ①返る,帰る,孵る◎変える,蛙」の1組が得られた。(A+B)の6語組は表の「カケル」1 組のみである。

5・6 語組の特徴は 4 組(22語)の内、「蛙[名詞]」を除いて21語の品詞が動詞である点である。Bの4語組でもこのような特徴が見られたが、組数が多い同音語では動詞が目立っていた。

<表 4 > 3 拍同音和語

	異なるアの語(A)	同じアの語(B)	(A+B)の語
2語組	73②晴れる◎はれる<腫>	262 ①頼り, 便り	—
3語組	1①余り(30才~)③余り(残り)◎あまり(~ひどい)	42 ◎荒い, 粗い, 洗い	22 ③絡み③◎辛み◎空身
4語組	0	4②起こる, 興る, 怒る, おこる<熾>	2②熱い, 暑い ◎厚い, 篤い
5語組	0	0	2②(占, 締, 閉, 絞)める ◎湿る
6語組	0	0	1②(掛, 駆, 架)ける, かける<賭, 翔> ◎欠ける
計409	74	308	27

27) 「吠」の意味は(選◎明◎③)となっている。

28) 「忍ぶ,偲ぶ」は(選②明②◎)と記載されている。

3.4 4 拍同音和語

4 拍和語の同音語は総217組が調査されたが、そのうち、アクセントの弁別の語は66(30.4%)組で、残り151(69.6%)組はアクセントの弁別がなく、それぞれの組が同じアクセントとなっていた。アクセントの弁別のある語とない語が混ざっている例は1組もなかった。4 拍同音語では「漢語+する」の形(41組)が目立っていたが、これらの例は検討の対象としなかった。

[Aの2語組]

オオカワ①大川, ◎大鼓[芸], カイヌシ²⁹⁾①②飼い主, ◎②買い主
 カタヒジ①肩ひじ, ◎片ひじ, キレモノ②切れ物, ◎切れ者
 コミダシ②小見出し, ◎コミ出し[囲碁], * サラサラ①(～流れる),◎(～考えない)
 シロクロ①白黒(～をはっきり),◎白黒(色), タダイマ②只今(今すぐ)④只今(あいざつ)
 ナミナミ③(～とつぐ),◎<並々>～ならぬ, ニクスレ②荷崩れ,◎②³⁰⁾煮崩れ
 ヒトヤマ②1山, ◎人山(～を築く), * ブツブツ①(～言う),◎(～になる)
 * ペコペコ①(～する)[副], ◎(～だ) * ボロボロ①(～こぼす),◎(～の着物)
 ヤキモチ①(気をもむ), ◎④³¹⁾焼きもち<餅>, ヤマモリ②山守, ◎山盛り

[合計64組]

すべて別のアクセントは2語組64例、3語組は表の例「ガラガラ」の他に「カンカン①(～照りつける)③(～台ばかり)◎(～になって怒る)」1組しか見られない。* 印の「サラサラ,ブツブツ,ペコペコ,ボロボロ」などのようにある一方または両方がオノマトペの同音語が目立つ。これは4拍語で総94組が見られたが、この内、「ツルツル①(～すべる)◎(～だ)、テラテラ①(～光る)◎(～になる)、ピカピカ①②(～光る)◎(～に光る)」のように意味が変わっていないもの56組は本稿の分析対象から除外した。

[Bの2語組]

アイビキ◎逢引, 合いびき(挽), アヤマル③誤る, 謝る
 ウカガウ◎伺う, うかがう<窺>, クミタテ◎組み立て, くみたて<汲>
 コボレル③零れる, こぼれる<毀>, シラタマ◎白玉[食], 白玉(宝石)
 ゼンマイ◎ぜんまい<発条>, 薇[植], ソナエル③②³²⁾供える, 備える

29) 「飼い主」は(選②①明②①)で、「買い主」の場合は(選×明◎②①)で記載されている。

30) 「煮崩れ」は(選×明◎)となっている。

31) 「焼きもち<餅>」の意味は(選③④明③④)と記載されている。

32) 「供える, 備える」とも(選③明③)と記載されている。

タキグチ◎滝口, たき口<焚>、 タテカエ◎立て替え, 建て替え
 ツカマル◎捕まる, つかまる<掴>、 ツキモノ◎付き物, <憑物>
 デキアイ◎出来合い, でき愛<溺>、 トキメク③時めく(今を~), ときめく(胸が~)
 ナゲヤリ◎<投遣>, 投やり<槍>、 ノットル③乗っ取る, のっとる<則>
 ハルマキ◎春まき<蒔>, 春巻き、 ヒソメル③潜める, ひそめる<嚙>
 ヒトタチ②人たち, 一太刀、 フミキリ◎踏切, 踏み切り(思いきること)
 ミニクイ③醜い, 見にくい<難>、 モットモ³³⁾③①最も[副詞], もっとも<尤>
 ワカレル③別れる, 分かれる、 ワズラウ◎③³⁴⁾思う, 煩う(思い~)

[合計143組]

[Bの3語組]

イタメル③痛める, 傷める, いためる<炒>、 オサマル③収まる, 治まる, 修まる
 オサメル③収める, 治める, 修める、 カミガタ◎髪形, 紙型, 上方(関西)
 スマセル③住ませる, 済ませる, 澄ませる、 ツトメル③勤める, 務める, 努める
 ぼんぼん①(~鳴る), (~言う), ぼんぼん(腹)[児]

[全例8組]

Bの3語組は<表5>の例「ツトメル」を含めて全部8組しか見当たらなかったが、「カイスル③解する, 会する, 介する, ショウスル③称する, 賞する, 証する, チョウスル③徴する, 吊する, ちようする<寵>」などの「漢語+する」の形の例、10組が見られた。Bの2語組でも「ヒョウスル③表する, 評する, モクスル③黙する, 目する」など「漢語+する」の形の例31組が見られたが、これらの例はすべて本稿の対象から除外された(注3拍では「漢語+する」の形の例が9組あった)。

<表5> 4拍同音和語

	異なるアの語(A)	同じアの語(B)	(A+B)の語
2語組	64 ②一足 ◎人足	143◎優しい, 易しい	-
3語組	2ガラガラ①~に鳴る ③(玩具)◎~だ	8③勤める, 務める, 努める	0
計217	66	151	0

33) モットモ「最も,<尤>」は(選・明)とも上と同じアクセントで記載されている。

34) 「思う」は(選◎③明◎)で「煩う」の場合は(選◎③明◎)となっている。

3.5 5 拍同音和語

5 拍の同音語は全部40組が検討されたが、この内39(97.5%)組がアクセントの弁別がなく、残り1(2.5%)組 (<表 6 >の例「ヒトアタリ」)だけがアクセントの弁別がある。

[Bの2語組]

オモテガワ◎表皮, 表側 クチウツシ③◎口移し, 口写し
 クミアゲル④組み上げる, くみ上げる<汲>
 シタナラシ③下慣らし, 舌慣らし *セメオトス④◎攻め落とす, 責め落とす
 タチアガリ◎立ち上がり, 裁ち上がり *タテナオス◎④立て直す, 建て直す
 *トキアカス④◎解き明かす, 説き明かす
 ヒキツレル④引き連れる, 引きつれる<攀>
 ヤマアラシ③山あらし<嵐>, <豪猪>

[合計39組]

5 拍の同音和語では複合動詞が目立ち、17例も見られた。また*印の例「セメオトス、タテナオス、トキアカス」のようにアクセントの揺れのある例も目立ち、10組が見られた。これは複合動詞のアクセントの原則に当てはまる型や複合動詞の最近のアクセントの優勢型<-2型(④)>との揺れである。このような揺れのあるアクセントは段々<-2型(④)>に定着しつつある。すでに最新版である(2011年版)『新選国語辞典』には揺れがなくなり「セメオトス④トキアカス④」と表記されていた。

<表 6 > 5 拍同音和語

	異なるアの語(A)	同じアの語(B)	(A+B)の語
2 語組	1 ②一当たり ◎③人当たり	39④省みる, 顧み る	-
計40	1	39	0

6 拍同音和語は「サシチガエル⑤刺し違える, 差し違える」や「スクイアゲル⑤救い上げる, すくい上げる<掬>」2組のみである。6 拍以上の同音和語は見当たらなかった。

4. おわりに

日本語の高低アクセントがどれぐらい同音語の弁別に関わっているのかを和語を中心にアクセント辞典を用いて調べた。最終的に分析対象として同音和語1050組が得られた。これを拍数別にアクセントを分析した結果は次のようである。

1 つは、アクセントの弁別がなく、すべて同じアクセントの例は684(65.1%)組があるのに対してアクセントによって完全に弁別されるものは241(23.0%)組に及ばなかった。またアクセントの弁別のあるものとないものが混ざっている例は125(11.9%)組が見られた。これらの組もアクセントの弁別のある例より同じアクセントの例が多い。このように、アクセントによる同音語の弁別は顕著なものとは言えないだろう。

2 つは、拍数別の特徴をみると、同音語は1拍語から6拍語まであり、この中で3拍語の同音語が409組で一番多かった。

3 つは、アクセントの弁別が一番多いのは2拍語で93組(38.6%)が見られ、アクセントの弁別のない例が最も多いのは3拍語で308(45.0%)組が得られた。

4 つは、アクセントの弁別のある語の組数は2組と3組しかないのに対して弁別のない語は2組から6組まであり、組数が増すほど、その組内の同音語の数は減少している傾向があった。

5 つは、4拍和語にはある一方または両方がオノマトペの同音語が目立ち、5拍の同音和語では複合動詞が目立っていた。

日本語のアクセント教育のため今後、同音和語のアクセントの研究はより幅広く研究されるべきである。

【参考文献】

<参考論文>

- 奥村三雄(1980)「漢語のアクセント」『論集日本語研究2』有精堂、pp.131-144
 徳弘康代(2006)『日本語教育における中上級漢字語彙教育の研究』早稲田大学大学院日本語教育研究科(博士論文概要)、pp.7-9
 宮地裕(1980)「同音語のアクセント」『論集日本語研究2』有精堂、pp.122-130

<参考辞書>

- NHK編(1999)『日本語発音アクセント辞典』日本放送出版協会
 金田一京助他(2011年版)『新選国語辞典』(第九版)小学館
 柴田武他(2012年版)『新明解国語辞典』(第七版)三省堂
 平山輝男(1985)『全国アクセント辞典』東京堂出版
 新村出『広辞苑』岩波書店

要 旨

「アキ」にちゃんとアクセントをつけなければ、「秋」か「飽き」か、それと「空き」なのか分からない。このように日本語には同音語がたくさん存在し、これを高低アクセントによって意味を区別することがある。ここでは日本語の高低アクセントがどれぐらい同音語の弁別に関わっているのかを和語を中心にアクセント辞典を用いて調べた。最終的に分析対象として同音和語1050組が得られた。これを拍数別にアクセントを分析した結果は次のようである。

1つは、アクセントの弁別がなく、すべて同じアクセントの例は684組があるのに対してアクセントによって完全に弁別されるものは241組に及ばなかった。またアクセントの弁別のあるものとなんが混ざっている例は125組が見られた。これらの組もアクセントの弁別のある例より同じアクセントの例が多い。このように、アクセントによる同音語の弁別は顕著なものとは言えないだろう。2つは、拍数別の特徴をみると、同音語は1拍語から6拍語まであり、この中で3拍語の同音語が409組で一番多かった。

3つは、アクセントの弁別が一番多いのは2拍語で93組が見られ、アクセントの弁別のない例が最も多いのは3拍語で308組が得られた。4つは、アクセントの弁別のある語の組数は2組と3組しかないのに対して弁別のない語は2組から6組まであり、組数が増すほど、その組内の同音語の数は減少している傾向があった。5つは、4拍和語にはある一方または両方がオノマトペの同音語が目立ち、5拍の同音和語では複合動詞が目立っていた。

キーワード：高低アクセント、同音語、弁別機能、同音和語、優勢なアクセント型

투 고 : 2013. 5. 31
1차심사 : 2013. 6. 15
2차심사 : 2013. 7. 6